

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和8年第Ⅱ四半期（4～6月）

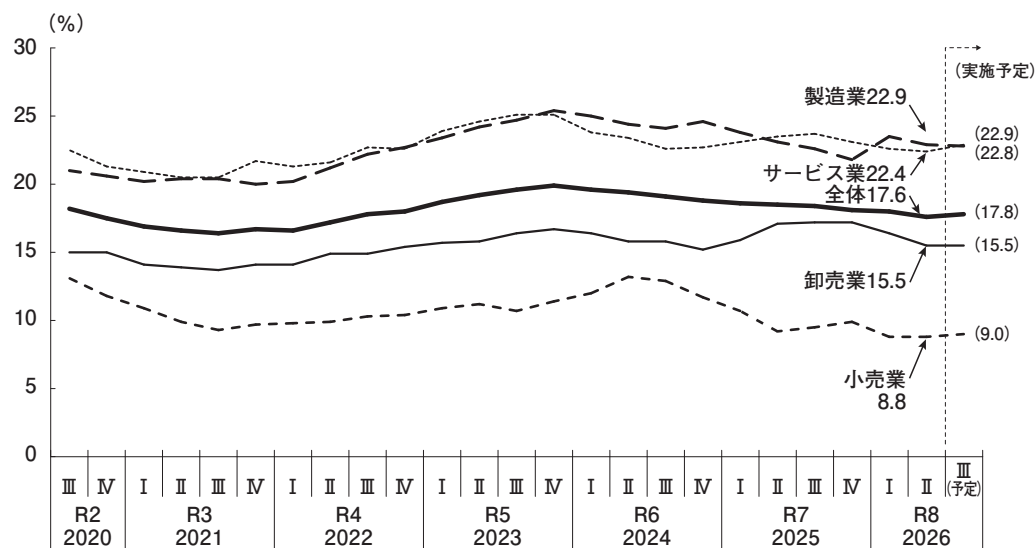
設備投資：わずかに低下 **資金繰り：改善に転じる**
採算状況：ほぼ横ばいで推移 **雇用人員：わずかに不足感が弱まる**

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和8年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は全体では17.6%となり、前期（令和8年1～3月）の18.0%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は卸売業15.5%（前期16.4%）は低下、製造業22.9%（同23.5%）はやや低下、サービス業22.4%（同22.6%）はわずかに低下した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和8年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では17.8%となり、わずかに上昇する見通しとなった。

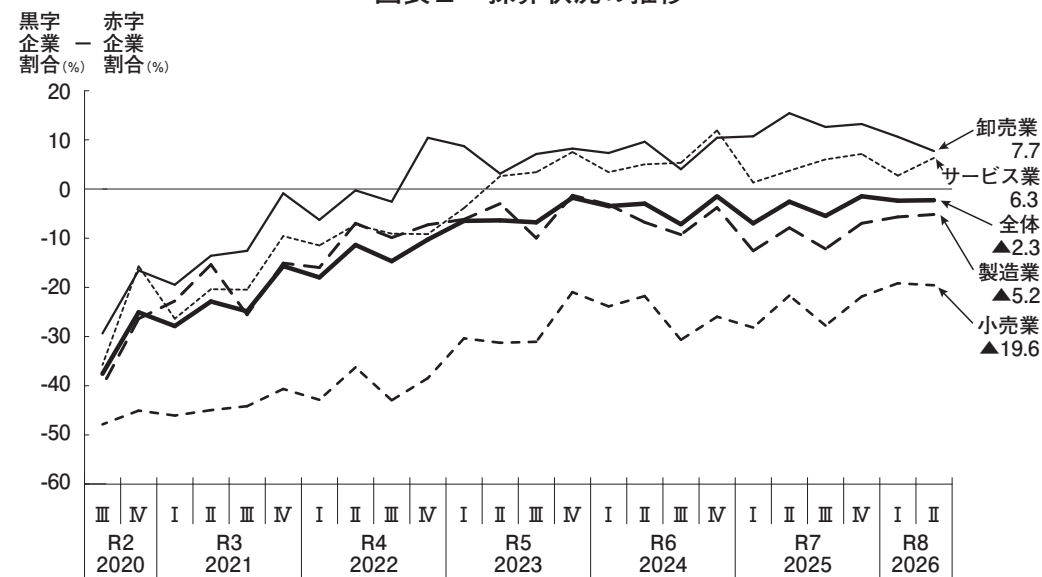
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べてサービス業22.9%は上昇、小売業9.0%はわずかに上昇が見込まれる。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲2.3（前期▲2.4）となり、ほぼ横ばいで推移した。

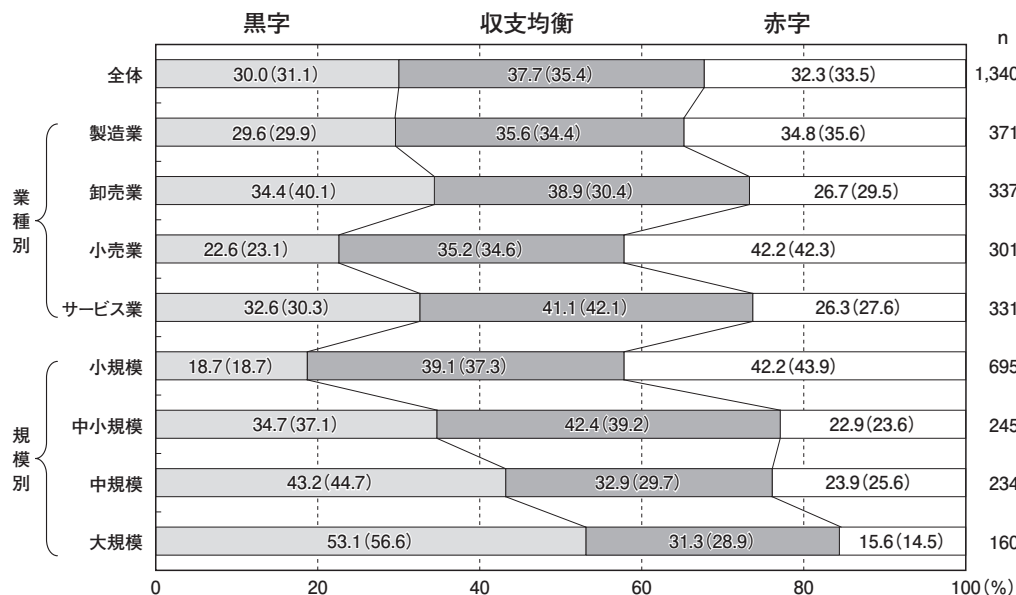
業種別にみると、サービス業6.3（同2.7）は3.6ポイント増加し改善した。一方、卸売業7.7（同10.6）は2.9ポイント減少しやや悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 53.1%（同 56.6%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和8年1～3月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

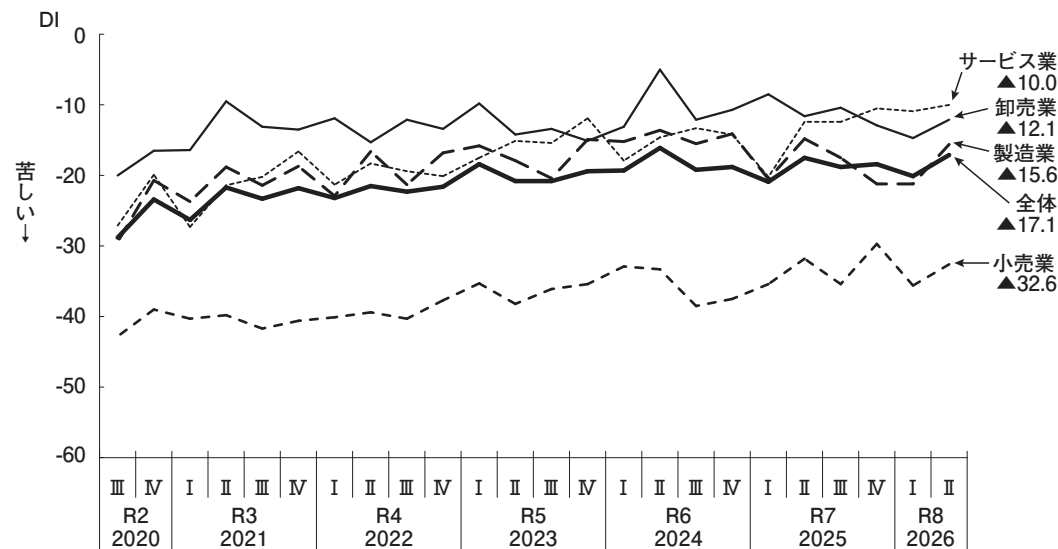
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲17.1（前期▲20.1）となり、3.0ポイント増加し改善に転じた。

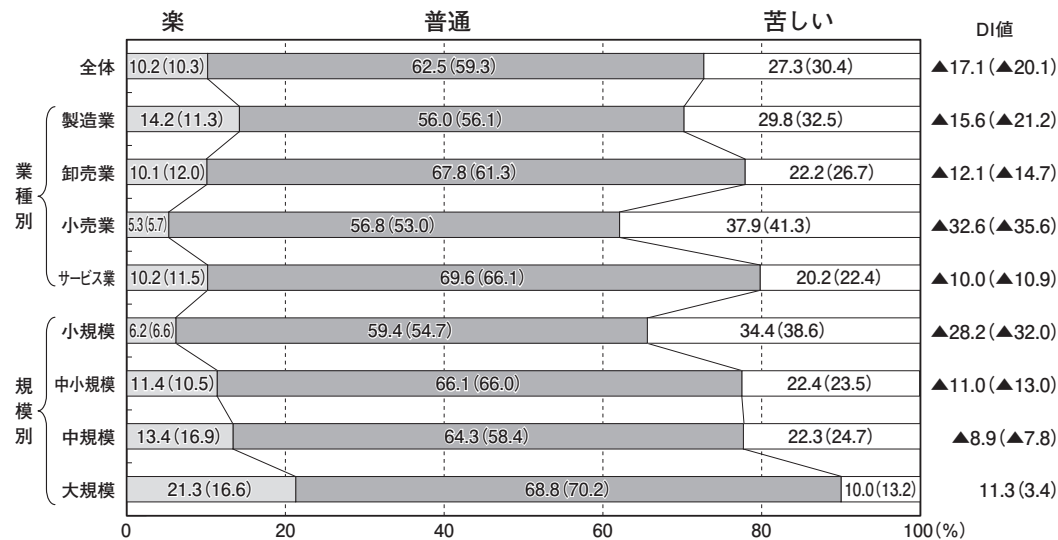
業種別にDI値をみると、製造業▲15.6（同▲21.2）は 5.6ポイント増加し大幅に改善、小売業▲32.6（同▲35.6）は 3.0ポイント増加し改善、卸売業▲12.1（同▲14.7）は 2.6ポイント増加しやや改善、サービス業▲10.0（同▲10.9）は 0.9ポイント増加しわずかに改善した。

規模別にDI値をみると、大規模 11.3（同3.4）は 7.9ポイント増加し大幅に改善、小規模▲28.2（同▲32.0）は 3.8ポイント増加し改善、中小規模▲11.0（同▲13.0）は 2.0ポイント増加しやや改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

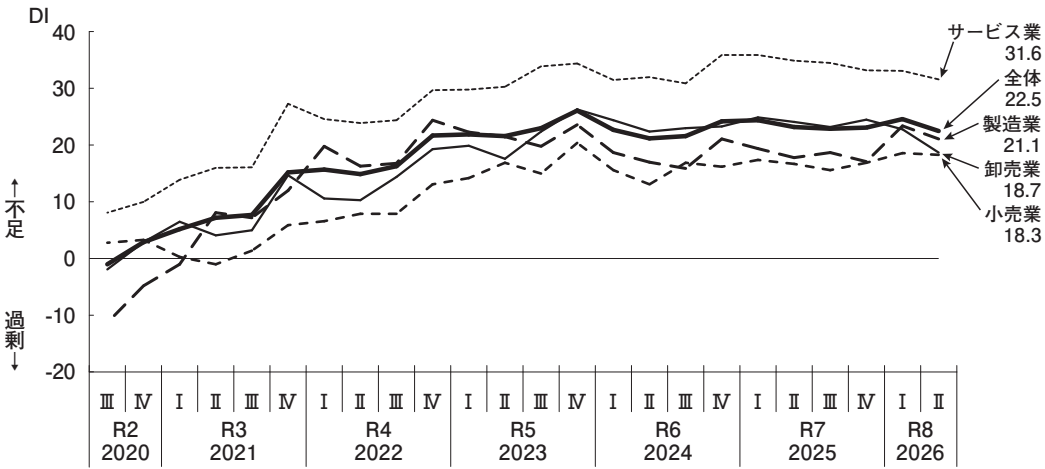


注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和8年1～3月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では 22.5（前期 24.6）と 2.1ポイント減少しわずかに不足感が弱まった。

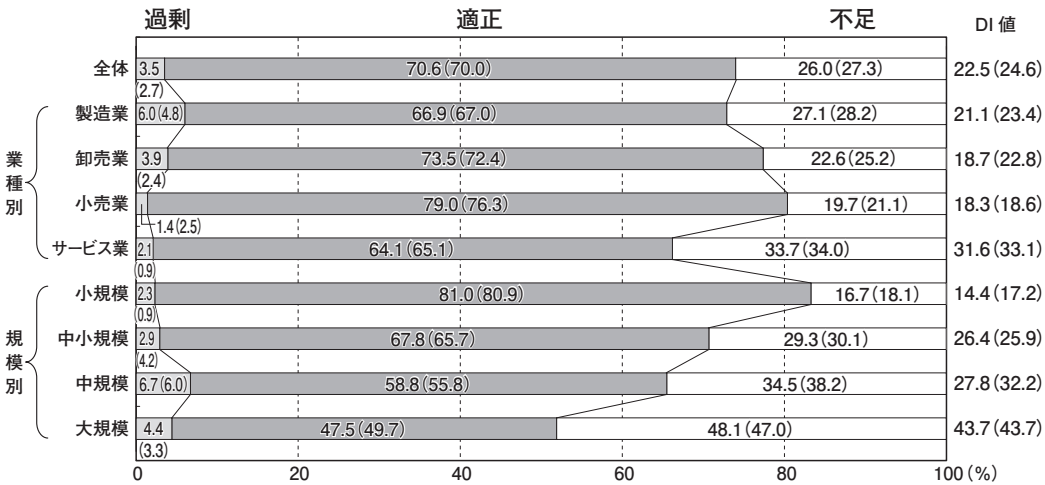
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、卸売業 18.7（同22.8）は 4.1ポイント減少し低下、製造業 21.1（同23.4）は 2.3ポイント減少、サービス業 31.6（同33.1）は 1.5ポイント減少しともにわずかに低下した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 43.7（同 43.7）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期（令和8年1～3月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。